

# アウェア デートDV防止プログラムについて (90分を基本とした場合)

## プログラムのねらい

アウェアのデートDV防止プログラムは、子どもたちがDVをする人にもされる人にもならないために学ぶものです。プログラムは次のようなことをねらいとします。

- 1) 子どもたちが「デートDV」とは何か、なぜおきるのか、その要因について理解する
- 2) デートDVも、それをおこす要因も、他人ごとではなく自分ごとであることに気づく
- 3) 相手を尊重することの大切さと、尊重するにはどうすればいいかを具体的に学ぶ
- 4) 対等・平等で、尊重と共感のある関係を作りたいし、できるという気持ちを育てる

## プログラムの内容とポイント

プログラムは次のようなポイントを子どもたちが理解するような構成になっています。

### 1) デートDVとは何かを理解する

- ① 意識チェックとその目的
  - a. DVは自分の問題だと気づく
  - b. 自分の思い込みに気づく
- ② DVは「力と支配」
- ③ DVは性別に関係なく(LGBTの間でも)親密な関係でおきること
- ④ 被害の実態を知る→加害者は男性が多い→男性を責めるのではなく、その理由を正しく理解して自分自身のジェンダーのしぼりに敏感になる
- ⑤ 暴力の種類 身体的なものだけではないことを理解する
- ⑥ DVの事例を次の中から選んで紹介し、デートDVへの理解を深める
  - a. ビデオを見せる
  - b. 事例を読む
  - c. 体験を話す(話し方に要注意)
- ⑦ DVは人権侵害、犯罪、性犯罪に当たる行為を含むと理解する

### 2) DVをおこす要因に気づいてやめる(unlearn 学び落とす)

- ① 力と支配 力を利用して人をコントロールすること
  - a. 社会
  - b. 地域社会
  - c. 家庭(身近なもの)
- ② 暴力容認 暴力を軽く考えること
  - a. 社会にあふれる暴力的表現
  - b. 身近な暴力体験
  - c. 男性が暴力的なことが見逃され、奨励される
  - d. 条件つきで暴力を許す意識

### ③ジェンダー規範(女らしさ/男らしさ、固定的な性別役割)

- a. 誰もがもっている
  - b. 自分ももっていることに気づいていない
  - c. 男女の力の差を生み出す 社会的/個人的
  - d. 男女の役割意識につながる → 支配・被支配の関係に結びつきやすい
- \* 自分にもこのような意識(価値観)のあることに気づくことが重要

### ④ゆがんだ恋愛観

- a. 暴力=激しい恋愛
- b. 強い束縛=愛情
- c. 独占する・される=付き合い

なお、クイズ/ロールプレイ/グループワークをしますが、次のような目的があります。

- a. 「力と支配」や「ジェンダー規範」などを実感したり、学んだことをより深く理解するために行う
- b. 身近な問題として話し合うことで確認したり、発見したりする

## 3) 新しく学ぶ (learn)

### ①ジェンダーに敏感になること

- a. ジェンダーのしぼりに気づく
- b. 自分らしさを大切にする
- c. 相手の「自分らしさ」を大切にする

### ②尊重すること

- a. 相手を自分と対等・平等な人として見る
- b. 自己決定権、性的自己決定(性的同意とは何か、その大切さ)
- c. 考え方(価値観)の違いを勝ち負けではなく「違い」としてとらえる

### ③共感 相手の気持ちを思いやる

### ④国連のSDGsと世界が目指す「ジェンダー平等」について知る

## 4) 自分とまわりに気づく

### ① 行動のチェックリスト

具体的に気づくためのもの。ひとりでも、友だちといっしょにやってもいい

### ② 友だちへのサポート(デートDVをしている人へ/されている人へ)

## 到達目標

- ① 意識と行動を変えることで、将来デートDVする人にも、される人にもならない
- ② 傍観者にならない。加害者に気づきを促しを、被害者にサポートをする人になる
- ③ ジェンダー・アウェア(気づく)になり、ジェンダー平等社会を目指す人になる
- ④ 家や地域でおきている暴力などに気づき、周りにいい影響を与えられる人になる
- ⑤ 尊重し合う健康な関係を、自分が希望すればつくれるという希望をもつ